

会 議 録 (要旨)

会 議 名	行政評価委員会第24回行政改革推進分科会
開 催 日 時	令和8年2月20日(金)午後5時から午後6時まで
開 催 場 所	町民会館第二会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：根岸分科会長、関谷副分科会長、石川委員、中村委員 事務局：渡辺企画政策課長、福島企画推進係長、企画推進係 若菜
報 告 事 項	なし
議 題	(1) 第7次瑞穂町行政改革大綱の策定について (2) その他
傍 聴 者	2名
審 議 経 過  (主な意見等を原則として 発言順に記載。同一内容 は一つにまとめた。)	<p>1 開会 根岸分科会長により会議の成立、公開についての説明が行われ、会議が進められた。また、渡辺企画政策課長より会議資料についての説明が行われた。</p> <p>2 議題 (1) 第7次瑞穂町行政改革大綱の策定について ○事務局より配布資料の説明</p> <p>(中村委員) 公共施設における将来の更新費用がこんなに多いことに驚いている。都と協力し、小学校の統廃合などを進めてはどうか。</p> <p>(事務局回答) 今年度、第5次瑞穂町長期総合計画後期基本計画の策定を進めており、将来にわたる持続可能な行財政運営の中で、公共施設マネジメントが大きな割合を占めると考えている。近隣自治体ではすでに議論が始まっていることから、町でも注視している。</p> <p>(石川委員) 現在、ふるさと納税はどの程度収入があるのか。</p> <p>(事務局回答) 令和3年度は約1,300万円、令和4年度は約1,500万円、令和5年度は約740万円、令和6年度は4,000万円を超えている。</p> <p>(石川委員) もっと少ないと思っていたので、驚いている。魅力ある返礼品が望ましい。クラウドファンディングはどの程度収入があったのか。</p>

(事務局回答)  
約170万円である。

(石川委員)  
ふるさと納税やクラウドファンディングは町のことを多くの方に知ってもらいたい機会である。ネーミングライツも含め、大いに進めてほしい。

(関谷委員)  
人口減とのことだが、原因は把握されているのか。

(事務局回答)  
令和6年度には出生数が150人を割っている。町だけでなく、全国規模の問題として捉えている。

(根岸分科会長)  
AIについて、仕事でも使用しているが、一般的には正しい情報が出てくる。ただし、AIも得意な分野と苦手な分野があるので、慎重に使用しなければならない。個人情報保護の観点から、一度入力を行うと、他の方が調べたときにAIが個人情報を答えてしまうケースもあるので、管理方法などを整備されてから導入を進めてほしい。

(中村委員)  
町には大きな物流倉庫があるが、人口減少の中で、今後、高齢者のニーズも増加することから、介護老人ホームなども必要と感じる。

(根岸分科会長)  
多摩都市モノレール延伸を控える中で、人口増加に向けた取組も考える必要があると思う。高齢者をケアする施設も当然必要であると同時に、より多くの人や若い人が集まれるまちづくりを行うために、行政として、企業誘致をどのように進めていくかが明確になると良いのでは。

(関谷委員)  
多世代で活用できる施設ができると多くの方に町に来てもらえるので、期待したい。

(事務局回答)  
多摩都市モノレール延伸を契機として、延伸後に施設を作ることも当然ある。町としても議論を進めていきたい。

(中村委員)

町に外国人はどれくらいいるのか。

(事務局回答)

町にいる外国人の方は、1,000人を超えた。約半分は、入管法に定められている、期間が限定された特定技能の方々に、仕事・技術を身に付けるため、生活をしている。残りの約半数は永住や日本人の配偶者の方である。数年前は中国人が一番多かったが、現在はベトナム人やフィリピン人が多い。

(根岸分科会長)

増加する外国人の方々に対する行政サービスの提供は、やはり言葉が壁となる。AIが活用できると良い。

(事務局回答)

現在、住民課と税務課の窓口を導入したタブレットの通訳機能を活用し、外国人対応を行っている。時間短縮の効果がある。

(根岸分科会長)

大綱という名前について、住民の方が馴染みやすいように、これからの時代に沿った名前に変更することを検討してみてはどうか。

(事務局回答)

ご提案感謝する。検討させていただく。

(2) その他について

○今後のスケジュールについて説明。

閉会 午後6時